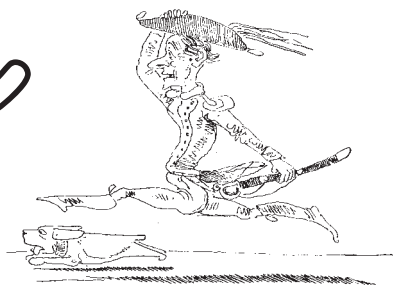


テプフェール ブックガイド



ロドルフ・テプフェールを読むための基礎書誌情報

1. ストーリーまんが史におけるテプフェール

ストーリーまんがの歴史研究において、ロドルフ・テプフェールの評価や位置づけは、いまだきちんと定まっているわけではない。ここでいう「ストーリーまんが」は、日本だけではなく海外の「コミックス」や「グラフィックノベル」や「バンドデシネ」なども含めた分野全般を、包括的にぼんやりと（あいまいに）とらえているのだが、それらの歴史はいまだに各国でも研究の途上にあり、ましてやグローバルな視点でとらえたまんがの世界史研究となると、実質的にはこれから本格的に手をつけられるべき課題とっていい状況にある。

それでも、ここ2、30年ほどの間に、特にアメリカやフランスなどの国々では史料の発掘や検討が進んできており、そこでロドルフ・テプフェールの作品は、まんが史を語る上で最も重要な存在のひとつとして注目を集めてきた。たとえば、アメリカのコミックストリップ史の研究で知られるデイヴィッド・カンズルは、テプフェールに関する研究書を『Father of Comic Strip: Rodolphe Töpffer (コミックストリップの父 ロドルフ・テプフェール)』というタイトルで出版している。またフランスのバンドデシネを研究しているブノワ・ペータースとティエリ・グルンステンは、やはりテプフェールに関する研究書として『Töpffer, l'invention de la bande dessinée (テプフェール、バンドデシネの発明)』を出版している。彼らはテプフェールをコミックストリップの父であり、バンドデシネの発明者であると考えている。

このような歴史研究は、日本のまんが史研究にとってもきわめて重要な意味をもっている。そもそも日本の「漫画」は、事実上「輸入文化」として明治期に本格的に始まり、その後も常に海外の動向に影響を受けながら発展してきた。問題を「ストーリーまんが」に絞ったとしても、そのルーツを過去にさかのぼって探っていくと、黎明期（明治期～1920年代）には、海外作品の翻訳や模倣が重要な役割を果たしていた実態が見えてくる。その後、日本国内で徐々に「ローカライズ」されていくにしたがって、日本特有の表現も生まれてきたと考えられるが、それを「日本特有」と言うためには、海外作品との比較検討が欠かせない。日本の「ストーリーまんが」はどこから来たのか？ 日本らしいまんがとは何なのか？ それを語るためには、どうしてもグローバルな歴史研究が必要なのだ。

テプフェールを調査することは、そのような研究の一步である。先に述べたように、テプフェールの歴史的評価は定まっているわけではない。研究者によって歴史観は異なり、テプフェールの位置づけも異なっている。そもそも「ストーリーまんが」「コミックストリップ」「バンドデシネ」などの概念も一定ではない。しかし、テプフェールの存在を抜きにして「ストーリーまんが」の歴史を研究することも、また、無謀な試みとっていいだろう。

日本語の資料も増え始め、日本人による研究書も刊行された現在、テプフェール研究はようやく一般の研究者にも手の届きやすいものになってきている。ここを足掛かりにすれば、テプフェール以外にも視野を広げて、他の地域や時代や分野などにも研究の手は広げやすくなっていくはずである。

本稿では、以上の状況を踏まえて、まずはテプフェールのまんがに関連の著作物を整理し、テプフェール作品を読む入口となる書誌情報をまとめている。

2. テプフェールの著作と出版物

■テプフェールのまんが関連の著作の概要

テプフェールの著作には、旅行記や小説など多数あるが、ここではまんが（テプフェールが「版画物語」「版画文学」などと呼んでいたもの）や、その関連出版物に絞り、以下のものを取り上げる。

なお、テプフェールの名前のスペルはドイツ語風だが、本人はフランス語圏であるジュネーヴで生まれ育っており、作品もすべてフランス語で書かれている。

- ①ジャボ氏物語
- ②クレパン氏物語
- ③ヴィユ・ボワ氏の恋愛（ヴィユ・ボワ氏物語）
- ④ヴィユ・ボワ氏の恋愛・第2版
- ⑤フェステウス博士（フェステウス博士の旅と冒険）
- ⑥フェステウス博士の旅と冒険【小説版】
- ⑦ペンシル氏物語
- ⑧アルペール物語（ジャック物語）
- ⑨クリプトガム氏物語【木版による出版バージョン】
- ⑩クリプトガム氏物語【自筆原稿バージョン】
- ⑪トリックトラック氏【未完】
- ⑫転写石版試作集
- ⑬観相学試論

この他にも未完の作品がいくつか断片として残されている（タイトル等は David Kunzle 編「Rodolphe Topffer: The Complete Comic Strips」の紹介ページ参照）。上記の13作は、過去に出版された実績があり、なんらかの方法で読むことができる（一部、アクセス困難なものもある）。

■2つの作品形態——肉筆アルバムと書籍版

テプフェールの作品を読む際に、注意すべきことがある。同じ作品が2回（以上）描かれているということだ。

主なテプフェールの作品は、まず肉筆回覧用としてノートに描かれ、周囲の人に読まれていた。その後出版される際に、原稿は全面的に描き改められている。現在一般的に読むことができるのは後者（書籍版）だ。ただし前者も（テプフェールの死後に）刊行されており、研究者に内容は広く知られている。他に海賊版などの異稿なども含めれば、さらに流通しているテキストの数は多くなるが、それは後に触れる。また「クリプトガム氏物語」は他の作品と事情が異なり、他人が彫り起こした木版で出版された。

肉筆アルバムと書籍とでは、内容が異なっているのはもちろんだが、描かれた順番と出版された順番が異なっているので、注意が必要である。



「ヴィユ・ボワ氏」肉筆アルバム（1827）



「ヴィユ・ボワ氏」書籍（1837）

■テプフェールのオリジナルと異本

テプフェールの主な作品は転写石版という方法で作られているため、製版の過程で原稿が消滅し、刷版しか残らない。その刷版も数 100 部程度の印刷にしか耐えられないため、それを刷りきってしまったら、もはや同じものを出版することはできない。だからテプフェールの死後に刊行された本はどれも、印刷物からの復刻版とならざるをえない。

写真製版が普及していない 19 世紀に刊行された復刻版（ケスマン版、ガルニエ版など）は、他人が絵を（トレースなどにより）描き直しており、きれいな仕上がりがだが、テプフェール本人の絵ではない。

1940 年代以降には写真製版による復刻版が刊行されたが、他人の手による補筆が多数見られる上に、描線が太くつぶれたり、版が歪んでいたりするなど、良好な復刻版とはいえない。残念ながら、この版はその後長く受け継がれ、現在欧米で刊行されている復刻版の多くは、いまだにこの版を流用しており、研究目的で読むには問題が多い。（詳しくは後述）

また、19 世紀に他人が描き起こした海賊版がフランス、イギリス、アメリカなどで広く流通しており、これらをテプフェールの真筆と誤解して引用している本も時々見受けられる。

テプフェールのオリジナル本に忠実な、品質の高い復刻版はわずかしかな存在しないため、研究目的で読む場合は、十分な吟味が必要である。

【主な出版の歴史】

（1）1833 ～ 1846 年 テプフェールの生前に刊行されたオリジナル本

ただし「クリプトガム氏」は他人が掘り起こした木版による印刷

（2）1846 年～ 仏独併記の全集（ケスマン／ヘルマン・刊）

テプフェールが許可し、他人がトレースした版で 6 作品が刊行された

（3）1860 年～ トレース復刻版（ガルニエ兄弟・刊）

テプフェールの息子のフランソワが版を描き起こした復刻版全集

（4）1922 年～ トレース復刻版（デュフレノア・刊）

ガルニエ版の復刻

（5）1943 ～ 45 年 テプフェール全集（アール・アルベール・スキラ・刊）

写真製版による復刻版。テプフェール全集の中の「CARICATURES」全 11 巻として刊行

3. テプフェール作品を読む方法

■日本語で読む

以下の 4 作品は日本語の対訳付きで刊行されている。

（1）ジャボ氏物語

「「ストーリー漫画の父」テプフェール」（森田直子／萌書房 2019）に収録。原版はジュネーヴ図書館所蔵のオリジナル（1833 年版）。縮小サイズ。

（2）クレパン氏物語

「クレパンさん」（森田直子・訳／ナラティヴ・メディア研究会 2017）

非売品。原版はジュネーヴ図書館所蔵のオリジナル。原寸。

2019 年 8 月現在品切れ中。

（3）ヴィユ・ボワ氏物語（ヴィユ・ボワ氏の恋愛）第 2 版

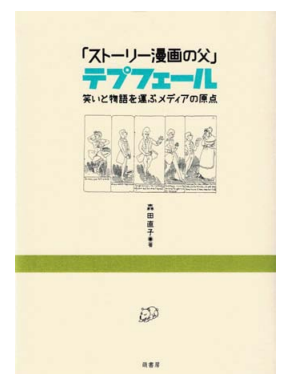
「M. ヴィユ・ボワ」（佐々木果・訳／オフィスヘリア 2008）

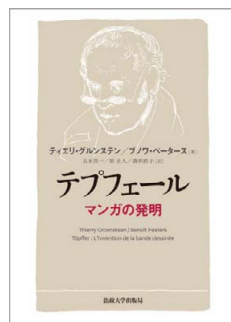
オリジナル原版。原寸。現在は PDF で無料公開されている。

<http://mstudies.org/arc>

（4）観相学試論

「復刻版 観相学試論」（森田直子・訳／オフィスヘリア 2013）





オリジナル原版。原寸。オリジナルと日本語版の両方を収録している。日本語訳は以下の本にも収録されている。「テプフェール マンガの発明」(ティエリ・グルンステン、ブノワ・ペータース/法政大学出版局 2014)

■洋書で読む

入手が比較的容易な洋書のうち、全集となっているものを紹介する。

なお、近年は、ネットで公開されている著作権切れの本の画像データをプリントした本がネット書店を中心に広く流通しており、テプフェールに関しても年々増加している。粗悪な品質のものが多く、無謀な価格をつけた詐欺本も多いので、注意が必要である。

(1) Rodolphe Töpffer: The Complete Comic Strips

David Kunzle 編、University Press of Mississippi, 2007

ISBN:9781578069460

2019年8月現在入手可能な全集。コミックストリップ史研究の第一人者、デイヴッド・カンズルの編集した本。約670ページ、英語の対訳付き。主要7作品と「トリックトラック氏」の他、未完作品の断片も収録しており、カンズルの解説も充実している。基本的な文献としてぜひ入手しておきたい。

ただし、復刻本として見た場合、オリジナルの再現性はあまり高くない。スキラ版(詳細は後述)の系統を底本としていると思われるため、細かい補筆が多数見られ、線も太くつぶれ気味になっており、一部には天地と左右の比率が変わって変形しているページがあるなど、研究目的で読むには問題が多い。またサイズも原寸ではないので、それらの事情を知った上で読む必要がある。(この問題は、欧米で刊行されている多くの本に共通する) また、「⑩クリプトガム氏物語【自筆原稿バージョン】」の内容は(2)と異なる原稿構成となっている。(詳細は後述)

【収録作】①②④⑤⑦⑧⑩⑪

【未完作品の草稿】「M. Anatole」「M. Boissac」「M. Calicot」「M. Brutus Calicot」「M. Fluet」「M. Vertpre」、他に未完のシナリオも収録されているが、英訳のみで原文はない。

(2) Rodolphe Töpffer

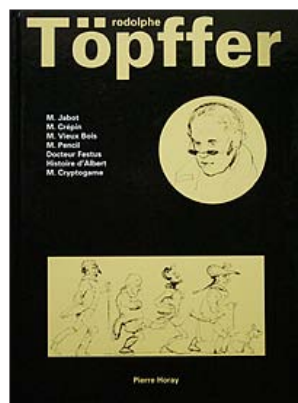
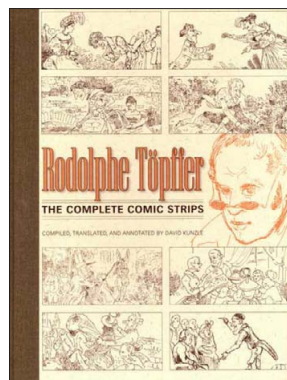
Pierre Horay/La Guilde du Livre, ISBN:9782705800321 (1975～)

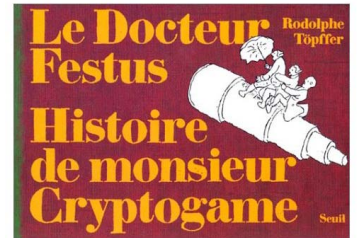
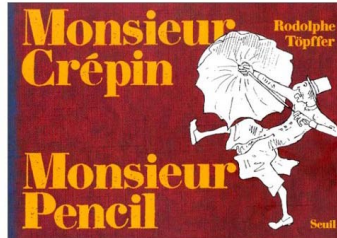
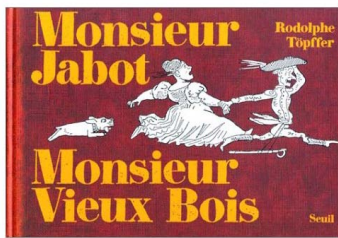
Pierre Horay, ISBN:9782705802448 (1998～)

Slatkine, ISBN:9782051013666 (2000～)

フランスで出版された大型の本。290ページ弱。1975年に刊行された後、何度か版を改めており、1990年代に新装版が出た後、2000年にはスイスのスラトキンから復刻版が出ている。横長のオリジナル・ページを、上下2段に収録。底本はスキラ版の系統なので(1)と同様の問題を抱えている。François Caradecによる前書きあり。本文はフランス語表記のみ。ドイツ語の対訳版も刊行されていた。2019年8月現在絶版のようだが、古書としては多数流通していて入手は比較的容易。

【収録作】①②④⑤⑦⑧⑩





(3) Deux histoires d'amour/Deux égarements de la science/Deux odyssées

Seuil, 1996

ISBN:9782020237284 ISBN:9782020237291 ISBN:9782020237307

オリジナルと同じの横長の本。主要7作品のうち「アルペール」をのぞく6作品を3巻に収録している。各巻とも Thierry Groensteen の前書きあり。本文はフランス語表記のみ。

基本的にはオリジナル本からの復刻と思われる、上記(1)(2)に比べると、テプフェール本来の細かい描線が再現されており、忠実度が高い(ただし一部にスキラ版系を流用しているページも見られる)。画面の大きさは原寸ではなく、全体的にやや縮小されている。2019年8月現在絶版で、古書でのみ入手可。

【収録作】

Volume1: Deux histoires d'amour ①④

Volume2: Deux égarements de la science ②⑦

Volume3: Deux odyssées ⑤⑩

■ネットで読む

(1) フランス国立図書館の電子図書館 (Gallica) <https://gallica.bnf.fr/>

「Rodolphe Töpffer」で検索すると、多くの作品をオンラインで読める。主なものは、以下のサイトからもリンクしている。

<http://www.topfferiana.fr/2013/02/tout-topffer-ou-presque-en-numerique/>

(一部海賊版も混ざっている所以要注意)

(2) 「M. ヴィユ・ボワ」をPDFで読む

前述のように、日本語対訳付きの「④ヴィユ・ボワ氏物語 (ヴィユ・ボワ氏の恋愛) 第2版」のPDFをダウンロードすることができる。原版はオフィスヘリア刊の書籍版と同一で、一部改訳されている。

<http://mstudies.org/arc>

4. オリジナル書誌情報

テプフェールが自分で出版したオリジナル本は転写石版で印刷されているため、大量印刷には向かない。木版で出版された「クリプトガム氏」をのぞき、発行部数はどれも数100部規模(600～800部程度)といわれる。

オリジナル版はどれもペーパーバックだが、現存する本はハードカバーに製本されているものが多い。当時は、本の購入者が自ら製本業者に頼んで製本してもらうのが一般的だったため、オリジナルの状態に残っているものは少ない。製本の際には、表紙を削除してしまうことも多く、周囲を断ち切り直すと外寸も変わってしまう。そのため、実測外寸などのデータは正確とはいえないものもあり、あくまでも参考値として見ていただきたい。

以下、刊行順に解説する。

①ジャボ氏物語

執筆：1831 年（肉筆アルバム）

出版：1833/1835 年

頁数：54（肉筆アルバム／本文のみ）、52（書籍／本文のみ ノンブル p1 ～ 52）

外寸：H162×W252mm（以上）裁断製本済みの実測

1831 年に「Histoire de M.Jabot」という題名で描かれ、知人の間で肉筆回覧された。1833 年に出版用に全面的に改稿され、J. Freydid（ジュネーブ）で印刷された。ただし当初は本格的には流通せず、1835 年から一般向けにスイスやフランスで販売された。

本の内容は少なくとも 2 バージョンある。一部の原稿が差し替えられており、「1833」「1835」という数字が書かれて区別されているページもある（p.28）。詳しいことはわからないが、本格流通させる際に改稿したのかもしれない。ただし、改訂版に「1835」と書くのはともかく、同じ箇所に「1833」とわざわざ書いてあるのは、経緯がよくわからない。現在流通している復刻版は、ほぼすべて「1833」版を元に行っているが、実際に出版されたオリジナル本は「1835」版の方が多いと推測される。

テプフェールの最初のストーリーマンガの単行本であり、（事実上）世界初のストーリーマンガの単行本でもある。



「1833」版 表紙（Gallica より引用）



「1833」版（まん中のコマの文字枠内）



「1835」版

②クレパン氏物語

執筆：1837 年（肉筆アルバム）

出版：1837 年

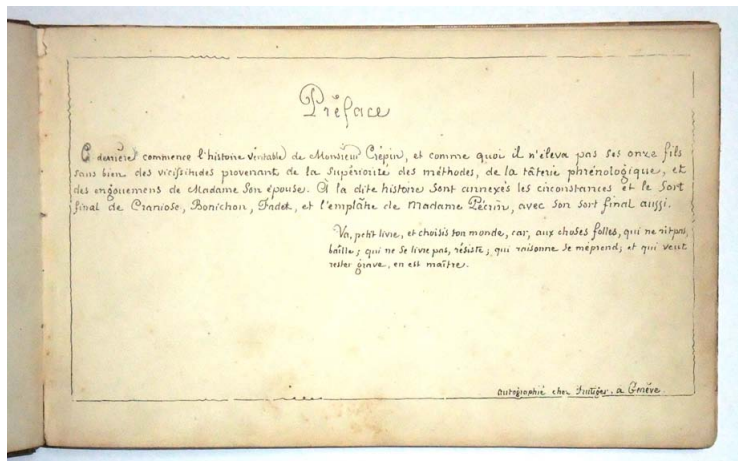
頁数：35（肉筆アルバム／本文のみ、2 段組）、86（書籍／本文のみ ノンブル p.3～88）

外寸：H133×W220mm（以上）裁断製本済みの実測

1837 年に「Histoire de Monsieur Crépin」という題名で描かれ、同年に出版用に描き改められ、Frutiger（ジュネーブ）で印刷された。「ジャボ氏」に続く第2単行本となる。



表紙（Seuil 版より引用）



前書き



最終ページ

③ヴィユ・ボワ氏の恋愛（ヴィユ・ボワ氏物語）

執筆：1827 年（肉筆アルバム）

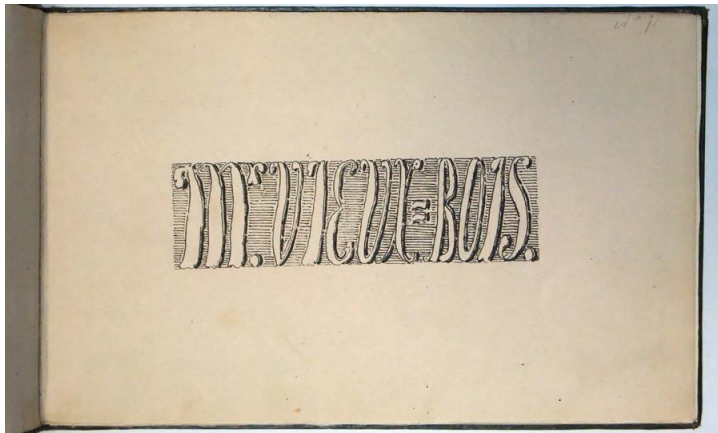
出版：1837 年

頁数：30（肉筆アルバム／本文のみ、2 段組）、83（書籍／本文のみ ノンブル p5 ～ 88）

外寸：H142×W227mm（以上）裁断製本済みの実測

1827 年に「Histoire de M.Vieux Bois」という題名で描かれ、肉筆回覧された。1837 年に出版用に全面的に改稿され、題名も「Les amours de M.Vieux Bois」となった（ただし旧来通りのタイトルを記した表紙の本も存在するようである。表紙が 2 バージョン以上あるのかもしれないが、詳細不明）。印刷は Frutiger（ジュネーブ）。テプフェールのノンブル記載ミスがあり、p.56 の次が 58 となっているため、実際の本文は全 83 ページ。

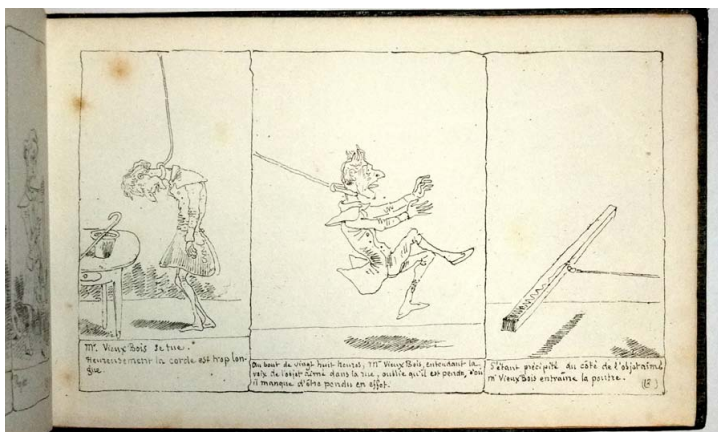
これまで一度も複製されることがないため、研究者にとっては内容を知ることが最も難しい本のひとつ。1939 年以降に出現する海賊版は、この 1837 年版を元にして作られている。



表紙



前書き



p13

④ヴィユ・ボワ氏の恋愛・第2版

執筆：1839 年（下書き）

出版：1839 年

頁数：91（本文のみ ノンブル p2 ～ 92）

外寸：H170×W275mm（以上）裁断製本済みの実測

全面的に改稿し、サイズやページ数も大きくなった増補拡張版。1839 年に「Les amours de M.Vieux Bois Seconde Edition」として刊行された。発売はLedouble（ジュネーブ）。基本的な内容は 1837 年版を踏襲しながら、コマやページを増やし、絵の描き込みも多くなっている。現在一般的に刊行されているのは、この 1839 年版である。一般的な読者は、こちらを読めば十分と思われる。（これ以降のテプフェールの本は、どれもほぼ同じサイズで発行されている）



表紙



（上）1837 年版（下）1839 年版

⑤フェステュス博士（フェステュス博士の旅と冒険）

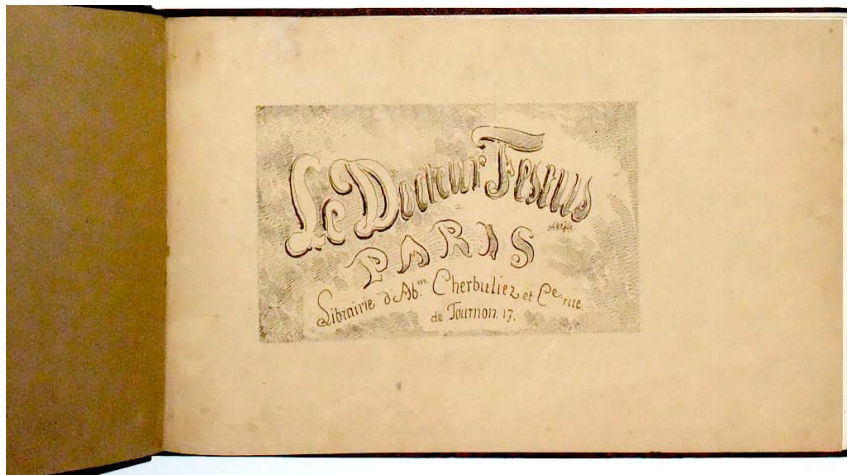
執筆：1833 年（肉筆アルバム）

出版：1840 年

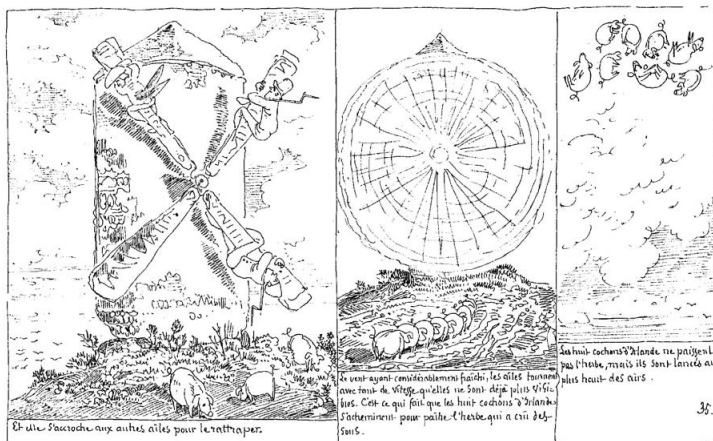
頁数：65（肉筆アルバム／本文のみ）、87（1940 年版／本文と巻末地図 ノンブル p2 ～ 88）

外寸：H171×W273mm ペーパーバックの実測

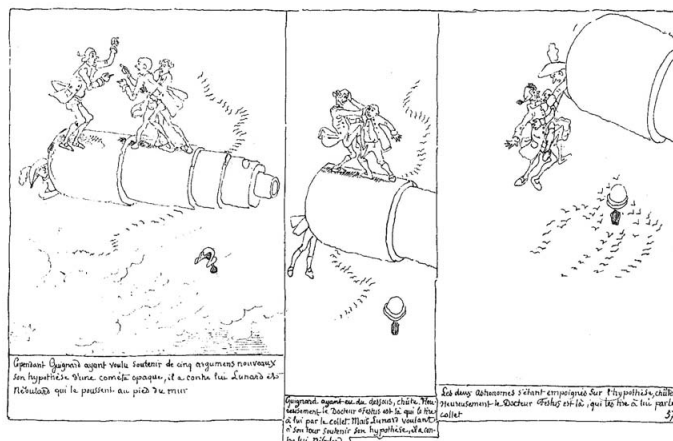
1829 年に「Les voyages et aventures du Docteur Festus」という題名で描かれ、肉筆回覧された。1833 年には小説版（ノベライズ版）が執筆されている。1840 年に出版用に全面改稿され、「Le Docteur Festus」という題名で A.Cherbuliez（パリ）から刊行された（表紙に表記されたタイトル。ただし本文内には肉筆アルバムと同じ題名表記もある）。印刷は Schmidt（ジュネーブ）。



表紙（紙の色は緑もある）



p35



p57

⑥フェステュス博士の旅と冒険【小説版】

執筆：1833 年

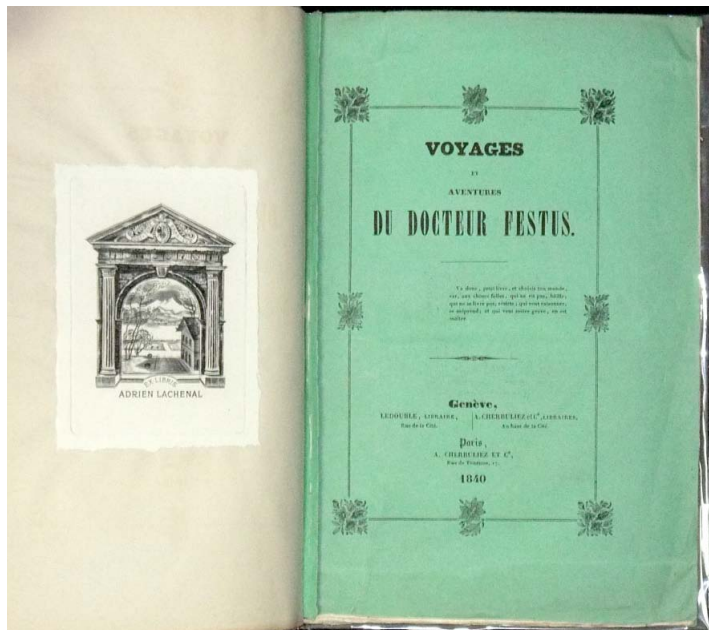
出版：1833/1840 年

頁数：154（1940 年版／扉・前書きを除く活字本文のみ ノンブル p7～160）

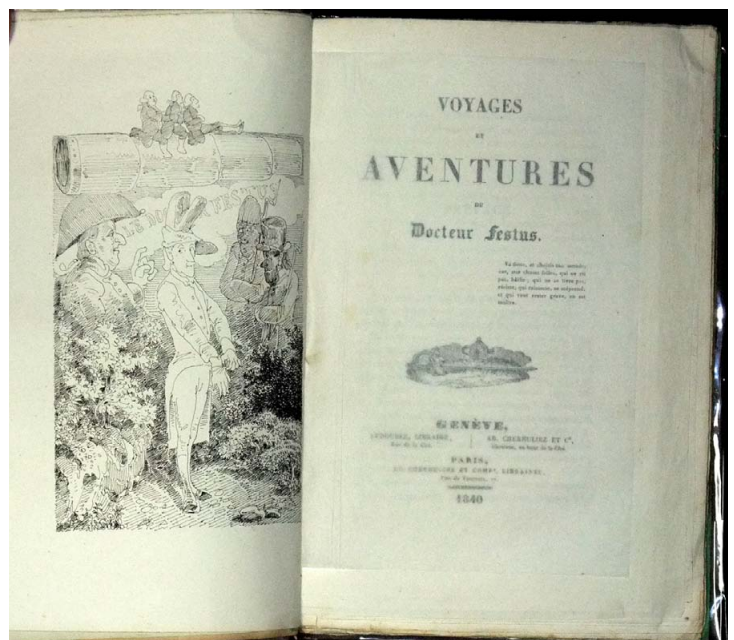
外寸：H225×W154mm 1840 年版ペーパーバックの実測

著者自ら「ノベライズ」した小説版。1833 年に「Voyages du Docteur Festus」という題名で出版されたとされるが、現存している本がきわめて少なく、現物を確認できていない。活版印刷の本文に 15 枚の転写石版の挿絵が綴じ込まれていたといわれる。

まんが（版画物語）の出版と同じ 1840 年になって、「Voyages et aventures du Docteur Festus」という題名で改めて出版された。本文は活版印刷で、転写石版の挿絵が 8 枚（扉絵、巻末地図を含む）綴じ込まれている。発売は Ledouble（ジュネーブ）と A.Cherbuliez（パリ）。



1840 年版 表紙
(左は蔵書票なので無関係)



1840 年版
綴じ込みイラストと中扉

⑦ペンシル氏物語

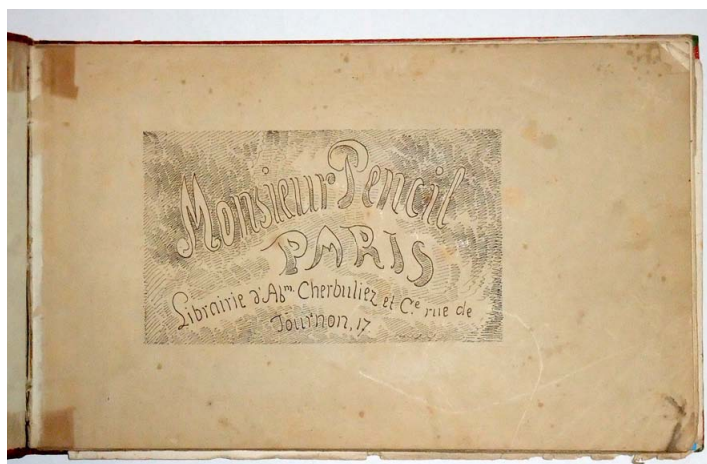
執筆：1831 年（肉筆アルバム）

出版：1840 年

頁数：71（書籍／本文のみ ノンブル p2～72）

外寸：H169×W272mm ペーパーバックの実測

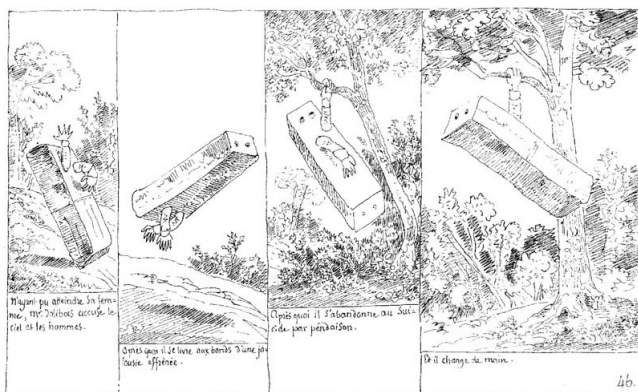
1831 年に「Histoire de Monsieur Pencil」という題名で描かれていた（未完）。1840 年に出版用に描き改められ、「Monsieur Pencil」という題名で A.Cherbuliez（パリ）から刊行された。印刷は Schmidt（ジュネーブ）。題名はとりあえず英語読みでペンシルと表記しておく。



表紙



前書き



⑧アルベール物語（ジャック物語）

執筆：1844 年（肉筆アルバム）

出版：1845 年

頁数：64（肉筆アルバム／本文のみ）、40（書籍／本文のみ ノンブル p1 ～ 40）

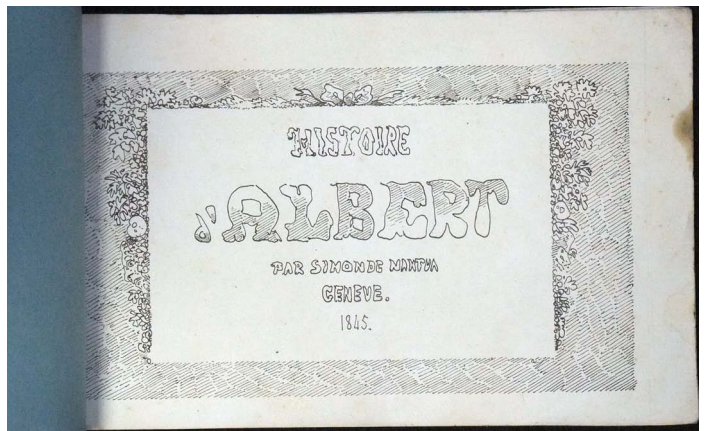
外寸：H173×W273mm ペーパーバックの実測

1844 年に「Histoire de Jaques」いう題名で描かれていたが、1845 年に出版用に描き改められ、「Histoire d'Albert」という題名で刊行された。著者名は「Simon de Nantua」と表記されているが、末尾ページにはテプフェールのイニシャル（RT）がサインされている。印刷は Schmidt（ジュネーブ）。

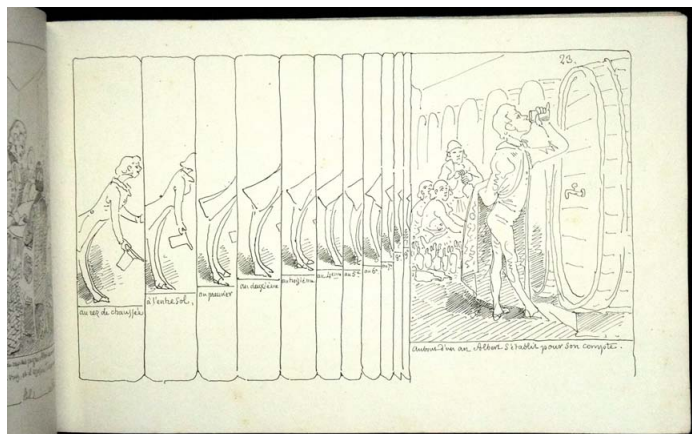
表紙



中扉



p23



⑨クリプトガム氏物語【木版による出版バージョン】

執筆：1830 年（肉筆アルバム）

新聞連載：1845 年

出版：1846 年

頁数：41（肉筆アルバム／本文のみ、2 段組）、64（書籍／本文のみ ノンブル p1 ～ 64）

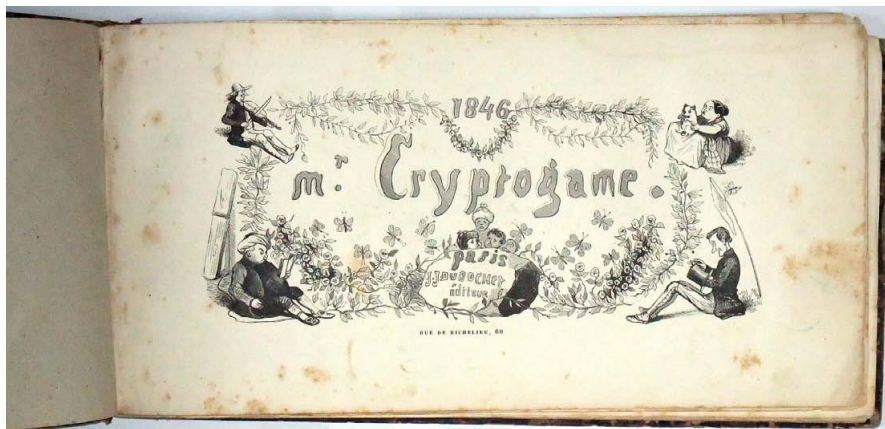
外寸：H158×W314mm（以上）裁断製本済みの実測

1830 年に「Histoire de M.Cryptogame」として描かれ、知人の間で肉筆回覧された。1844 年には全面的に改稿され、物語の内容も大きく変更されている。

このテプフェールの原稿を下絵にしてカム（Cham）が新たに絵を描き起こし、木版印刷によって週刊紙「L'Illustration」の 1 月 25 日号から 4 月 19 日号に 11 回連載され、多くの人に読まれることとなった。これは、テプフェールの自筆稿を参照して描かれているが、印刷後にはコマの中の絵の構図はすべて左右反転させてしまっている。

同年には、この連載版を採録した英語版の単行本「The Veritable History of Mr. Bachelor Butterfly」が D.Bogue（ロンドン）から出版されている（これはテプフェールの知らぬうちに未契約のまま発行されたので、オリジナルの刷版を使っているが、多くの文献では海賊版として扱われている）。遅れて 1846 年には正規契約のフランス語版「Histoire de M.Cryptogame」も J.J.Dubochet（パリ）から出版された。このフランス語版は、連載版から一部が改稿されている。

この単行本は、海賊版も含めて、その後長く欧米各国で出版され、テプフェールの中では最も広く普及した作品とされる。ただし、絵がテプフェール本人のものではないこともあってか、この 100 年ほどは復刻版が出版されていないため、現在ではアクセスしづらい作品となっている。



J.J.Dubochet 版 中扉



J.J.Dubochet 版

⑩クリプトガム氏物語【自筆原稿バージョン】

執筆：1844～45年頃（下書き／清書原稿）

テプフェールは、この作品を自分の描いた絵で改めて本にすることを計画しており、1845年頃には改稿作業を進めていたが、一部を描き終えただけで病気のため中断し、翌年テプフェールは死去した。結果として、以下のような原稿が残されたと推測される。

(A) 下絵（連載時にカムが参照したと思われるもの）

コマ No.1～201。ページになっているものもあれば、断片的なコマもある。

(B) 清書原稿（新たに印刷用に書いた自筆原稿）16枚

p1（コマ No.1）はトピラ。p2 から p16 までには 52 のコマが描かれている（コマ No.2～53）。

テプフェールの死後 50 年経った 1896 年になって、(A) と (B) を組み合わせて読めるようにした本が、Librairie J. Jullien により写真製版で出版された。p9～16（コマ No.27～53）だけは (B) を用い、他は (A) が収録されている。

1944 年のテプフェール全集（CARICATURES/ 第 8 巻、アール・アルベール・スキラ・刊）にも収録されたが、今回は組み合わせが異なり、(B) をすべて活かして p1～16 に入れ、p17 以降に (A) を収録している。1975 年に出版された Horay 版やその新版、1996 年の Seuil 版も同様の構成になっており、現在はこの形がかなり広まっているようである。

2007 年に出版された Kunzle 編では構成がさらに異なっており、(B) の全 16 ページのうち p4～8（コマ No.9～26）だけを採用せず、その部分を (A) に置き換えている。Jullien 版に近い考え方だが、冒頭 3 ページは (B) を用いている点が異なる。

結果として、(A) のコマ No.27～53 だけは、公に出版される機会がないまま現在に至っている。



Librairie J. Jullien 版 表紙



Librairie J. Jullien 版
コマ No.124～126

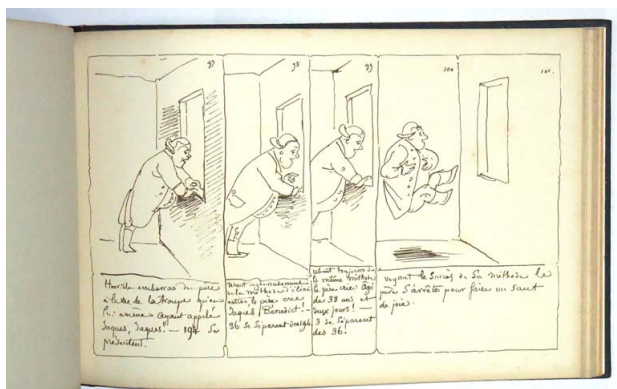
⑪トリックトラック氏【未完】

執筆：1830 年（肉筆アルバム）

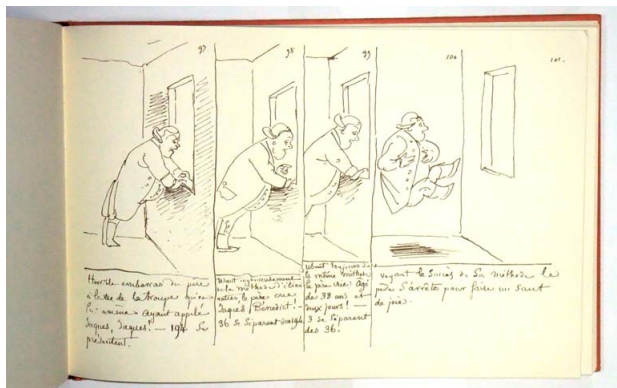
頁数：41（本文のみ）

1830 年に「Monsieur Trictrac」として描かれていたが、未完のまま肉筆アルバムが盗難のため紛失したとされる。100 年ほど後に現物が発見され、1937 年に「Journal de Genève」が 250 部の限定版で出版した。同じアルバムに描かれていた「Histoire de M.Boisec」5 ページ分（未完）やスケッチなども収録されている。現物には描かれていない（と思われる）ページごとの外枠が補筆されて、単行本の原稿風に修正されている。サイズは全体的に縮小されていると思われる。

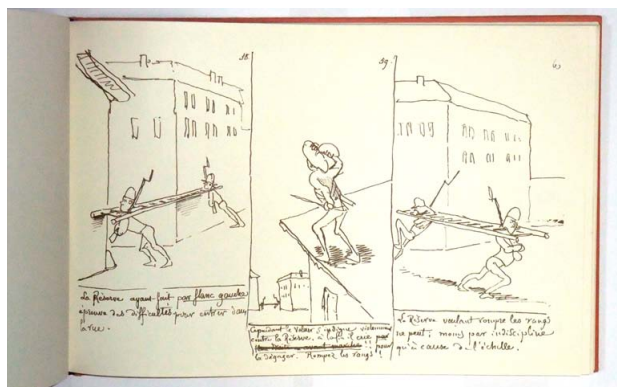
1944 年には全集（スキラ）に再録されたが、こちらには外枠はなく、絵（コマ）ごとの区切りの線があるだけである。おそらくこれがオリジナルの状態と考えられる。ただしサイズはやはり縮小版のようだ。1988 年にはスイスの Favre から新たな版で刊行されている（ISBN:2828903877）。サイズは前 2 点より大きく、「Fac-similé」と記載があるので、原寸大でアルバム全体をそのまま収録したと思われるが、正確には確認できていない。巻末に Philippe Kaenel による解説付き。



Journal de Genève 版



Favre 版



Favre 版

⑫転写石版試作集

出版：1842 年

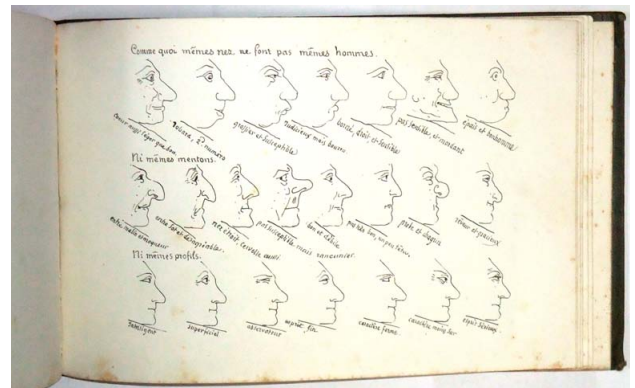
頁数：24（24 葉に片面印刷）

外寸：H143×W226mm（以上）裁断製本済みの実測

1842 年に「Essais d'autographie」という題名で出版された図版集。細かい描き込みの風景画からカリカチュアにいたるまで、幅広い内容のイラストが収録されている。説明文は一切なく、ただ図版だけが示されている本だ。表紙と裏表紙にも図版があり、合計 26 点が印刷されている。印刷は Schmidt(ジュネーブ)。転写石版という印刷技法によってどのような表現が可能かを実証的に示したものとされる。その意図は、「『転写石版試作集』への注記」という題名の文章に書かれて、別に発表された（森田直子によって翻訳され、「テプフェール マンガの発明」（法政大学出版局）に収録されている）

1904 年には、Librairie A. Jullien から復刻版が出版された。内容は原寸で再現されている。

表紙



⑬観相学試験

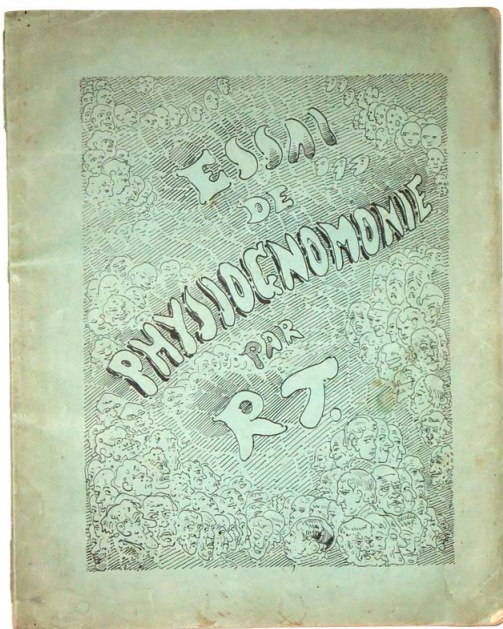
出版：1845 年

頁数：36（本文のみ）

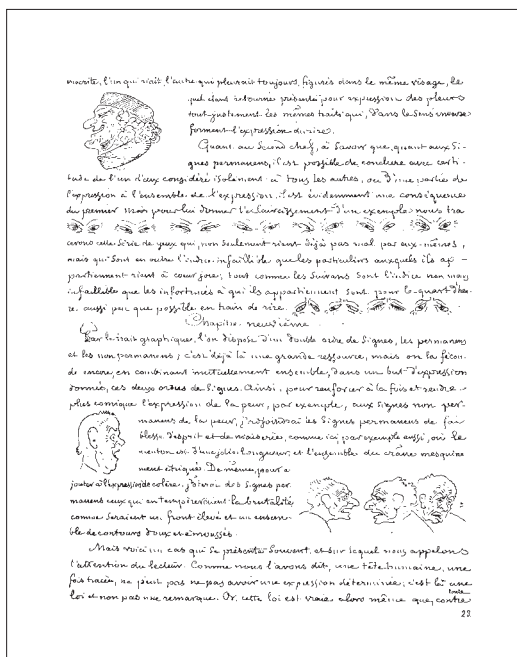
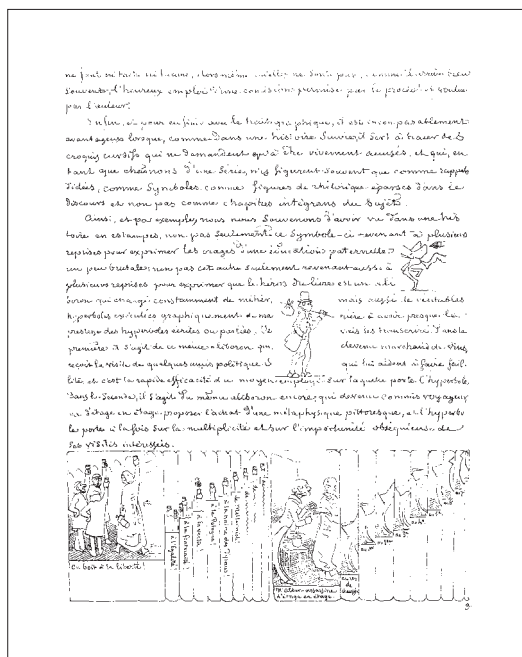
外寸：H292×W234mm ペーパーバックの実測

1845 年に「Essay de Physiognomonie」という題名で出版された論考。活版印刷ではなく、テプフェールの他の本と同様に転写石版で印刷されているため、活字は一切なく、文章のすべてをテプフェールが手書きしている。この印刷技法により、文章と図版を自由にレイアウトできるメリットが活かした誌面構成となっている。印刷は Schmidt（ジュネーブ）。

ストーリーまんがという観点で歴史を見た場合、おそらく世界で最初の本格的なまんが論だと思われる。



表紙



5. 1846 年以降の主な出版

■ケスマン版

1846 年から刊行の始まった全集。「Collection des histoires en estampes de R.Toepffer」というタイトルで、「クリプトガム」をのぞく主要 6 作品が順次刊行された。テプフェールが生前に許可したシリーズとして貴重な存在である。

版は他人が描き起こしているが、忠実なトレースでテプフェールの絵を再現している。文章は仏独の併記となっており、きれいな筆記体（カリグラフィ）で入れられている。ただし 2 言語対応のため文字スペースが大きくなり、オリジナル版に比べると絵が全般的にトリミングされている。発売元としてジュネーブの Kessmann と、ライプツィヒの Hermann がクレジットされていた。扉には各作品の主人公が勢ぞろいした絵が描かれており、テプフェールの描き下ろしではないかと思われる。



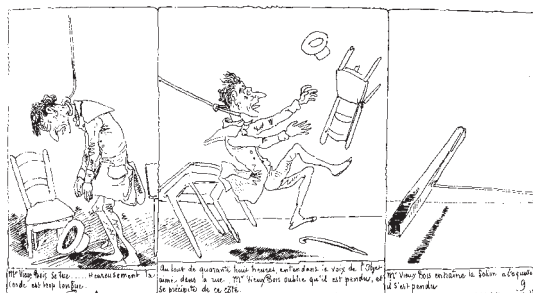
上がフランス語で下がドイツ語

■ガルニエ版（デュフレノア版）

テプフェールの死後 14 年経った 1860 年に、Garnier Frères（ガルニエ兄弟）から刊行された全集。版元ハードカバーで、印刷は Caillet。テプフェールの息子のフランソワ（François Töpffer 1830-1876）が新たに版を描き起こしたもので、オリジナルにかなり忠実に作られている（ただし絵やテキストの一部には変更も加えられている）。この全集の出版により、テプフェールの各作品は広い読者を獲得し、フランスではこの後長い間、子供向けの定番絵本として読まれるようになったといわれる（フランソワ・カラデック「フランス児童文学史」参照）。

1922 年頃には、Dufrénoy（デュフレノア）から復刻版が刊行された。全巻を確認したわけではないが、ほとんどそっくりな仕上がりで、版元ハードカバーのデザインが少し変更された他、最終ページの下部に小さく復刻版のクレジットが加わっている。

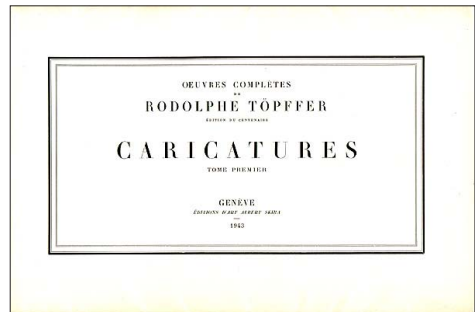
ガルニエ版とデュフレノア版は、長い間にかなりの部数が出たと思われる、古書市場でも流通量は大変多い。



■ スキラ版

1942 年頃には、文章も含めたテプフェールの大規模な全集の刊行が開始された。刊行したのは、ART ALBERT SKIRA (ジュネーヴ) で、まんが (版画文学) 作品は 1943 ~ 1945 年にかけて「CARICATURES」シリーズ全 11 巻としてまとめられている。内容は以下のとおり。

1. M. ジャボ、M. ジャボについて (文章、1837)、M. ジャボについて (文章、1839)
2. M. クレパン
3. M. クレパン (肉筆アルバム版)
4. M. ヴィユ・ボワ (第 2 版)
5. M. ペンシル
6. フェステュス博士
7. アルペール
8. M. クリプトガム
9. M. トリックトラック、M. ボワゼック、M. ヴェルプレ
10. 転写石版試作集、転写石版試作集への注記 (文章)
11. 観相学試論、書誌一覧



オリジナルの本から写真製版されたものだが、テプフェールがわざと途切れ途切れに書いていた枠線をつなぎ直したり、描き漏らした線を書き加えたりと、オリジナルにはない補筆が加わっている。中には、線のかすれを想像で補修したために、絵の一部が明らかに改竄されている部分もあり、現在の目で見ると複製作業としては、かなり劣悪といえる。また、複写によって線が全般的に太くなったため、人物に対して背景の絵が強く感じられる他、製版時のミスで天地と左右の比率が変わってしまい、変形しているページがあるなど、オリジナルの再現性は相当低い。

残念ながら、以後の出版ではこの版が流用されることが多く、現在最も広く普及している Horay 版の系統や、Kanzle 編の University Press of Mississippi 版なども、基本的にこの版を採用している。きちんとしたテプフェール研究には、まだ環境が十分整っていないのが現状である。

6. 海賊版

テプフェールの本の海賊版は、1839 年に初めてパリに出現したとされる。以後、それがイギリスやアメリカなど各国に広がっていった。テプフェールのオリジナル本は部数が少なかったため、初期の段階では海賊版による普及が多かったと考えられる。そのため、まんが史を研究する上では、テプフェールの海賊版の歴史も欠かせない。

以下、初期の主な海賊版を紹介する。

■ Aubert 版 (フランス)

(1) Histoire de M.Jabot

1839 年 2 月、オーベールが出していた諷刺新聞「Le Charivari」(シャリヴァリ) に、「ジャボ氏」の冒頭 2 ページ分が無断で掲載された。模写による複製である。その後オーベールからは、丸ごと 1 冊の海賊版が「Histoire de M.Jabot」の題名で同年に出版された。

オリジナルは本文 52 ページの作品だが、この海賊版単行本は 48 ページ。模写による複製だが、一部のコマが省略されたり、入れ替わるなどしている。その後、早い時期にオリジナルと同じ 52 ページに増やして修正したバージョンが刊行されており、流通量は 52 ページ版の方が多いようである。テプフェールはエッセイの中でこの海賊版の出来の悪さを指摘しているが、その内容を見るかぎり、48 ページ版の方を見たのではないかと推測される。48 ページ版も 52 ページ版も、オリジナルと比べるとコマごとに絵が反転している箇所が多く、文字は筆記体 (カリグラフィ) で入れられている。

(2) Histoire de M.Crépin

(3) Les amours de M.Vieux Bois

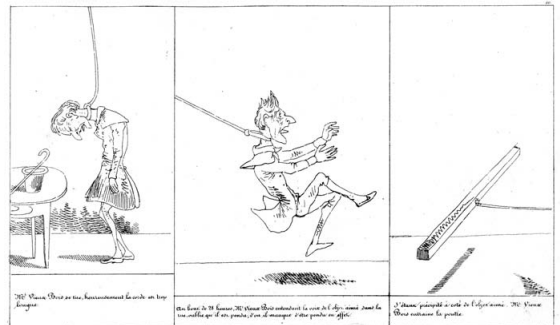
オーベールは1839年に、立て続けに「クレパン氏」「ヴィユ・ボワ氏」の海賊版も刊行した。(3)の内容は1837年版をもとに作られている。これら3冊の絵を描き起こしたのはカム (Cham) ではないかと推測する説もあるが、実態は不明。

「ジャボ氏」の際のミスを反省したのか、こちらは絵の反転もなく、かなり再現度の高い仕上がりになっている。

以後オーベールは、テプフェールと同じ様式の作品をカムやギュスターヴ・ドレ (Gustave Doré) などに依頼し、海賊版と同じシリーズ「ジャボ・コレクション」として刊行を続けていく。これらは、テプフェールの直接的な影響を受けた最も早い作品群といえる。



ヴィユ・ボワ氏 (Aubert) 1839 年 文字がカリグラフィで、枠線は直線となっている



ジャボ氏 (Aubert) 1839 年 (52p バージョン)



【参考】 ジャボ氏 (オリジナル) 1833 年

■ Tilt & Bogue 版（イギリス）

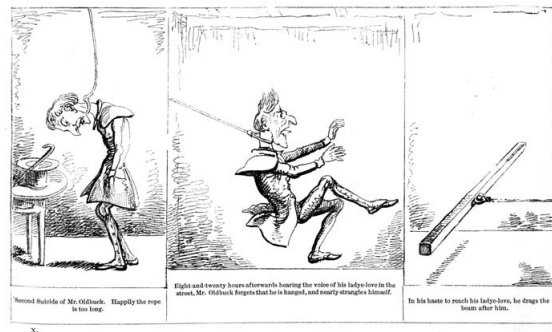
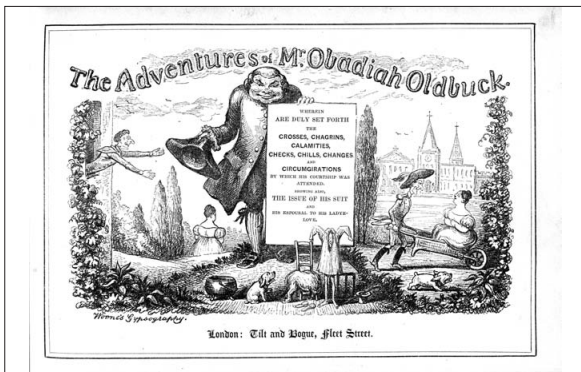
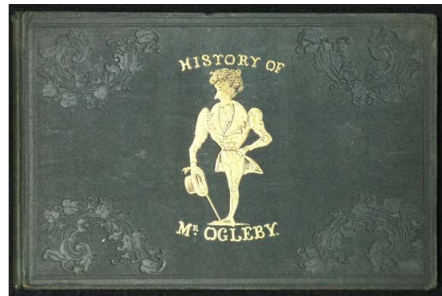
(1) The Adventures of Mr. Obadiah Oldbuck

1841 年になって、イギリスでも「ヴィユ・ボワ氏」の海賊版が Tilt & Bogue（ロンドン）から出版された。元になったのはオーベール版と思われ、それを模写・加筆することで版が作られているようだ。制作にはジョージ・クルックシャンク（George Cruikshank）が協力し、扉絵はクルックシャンクが描いたといわれている。題名は「オバダイア・オールドバック氏の冒険」と変更された。版元ハードカバー。

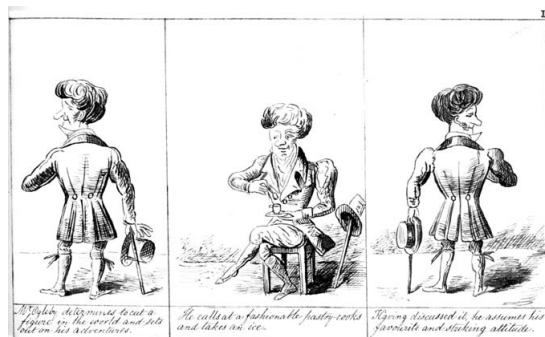


(2) The Comical Adventures of Beau Ogleby

1842 年頃には同社から「ジャボ氏」の海賊版も出版された。「ヴィユ・ボワ氏」と同じくオーベール版を元に模写・加筆したものと思われ、オリジナルから反転されたコマの絵などもそのまま引き継がれている。版元ハードカバー。



The Adventures of Mr. Obadiah Oldbuck (Tilt & Bogue) 1841 年



The Comical Adventures of Beau Ogleby (Tilt & Bogue) 1842 年頃

■ Wilson 版（アメリカ）

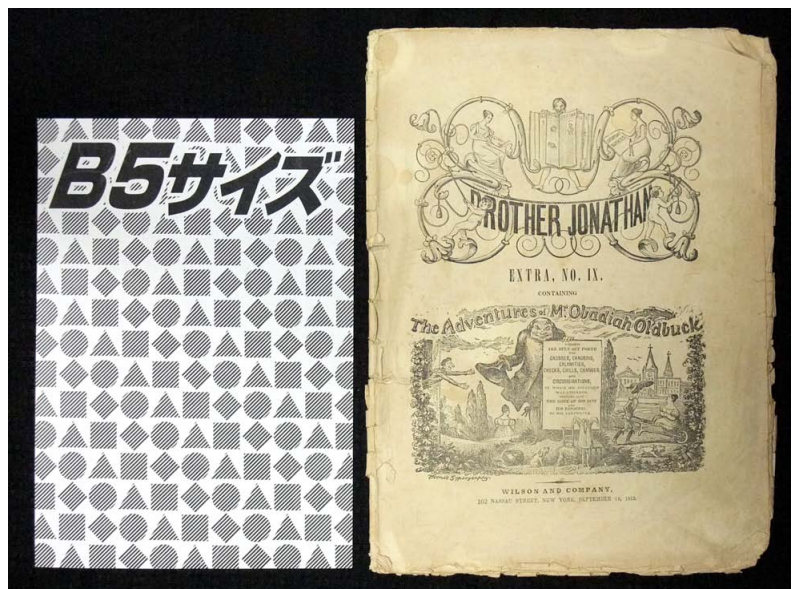
（1）The Adventures of Mr.Obadiah Oldbuck

1842年に、Wilson & Company（ニューヨーク）が雑誌「Brother Jonathan」の付録として、「ヴィユ・ボワ氏」の海賊版を出版した。イギリスの海賊版の版を流用していると思われ、2〜3段に組み換えて40ページの本にしている。郵送講読とブックスタンドの2つのルートで販売されていたようで、ブックスタンド用には黄色い表紙が追加されていたとされる（Official Overstreet Comic Book Price Guide 参照）。1849年には、オリジナルと同じ横長の判型で、改めて刊行された。ただし内容は一部省略されるなど十分なものではなかったようで、後に改訂されたものが登場している。1870年代以降には別の版元から刊行されていた。

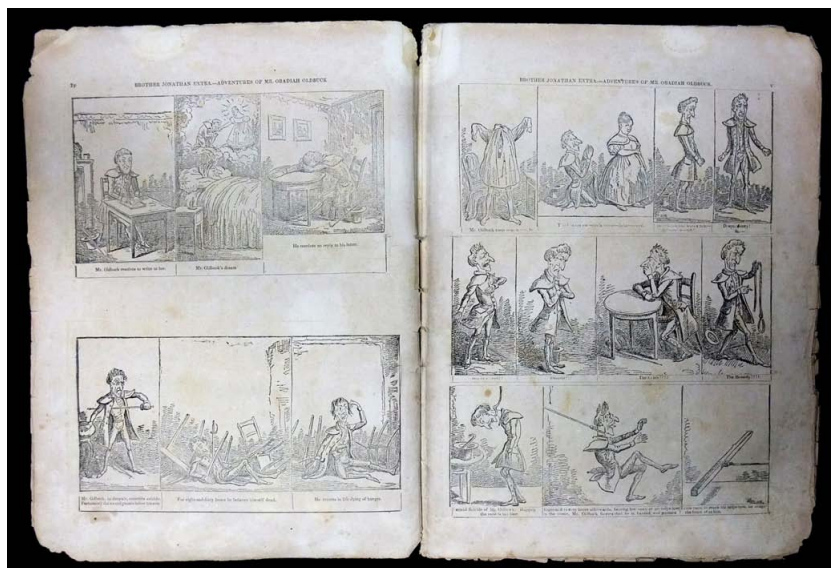
（2）The Veritable History of Mr. Bachelor Butterfly

1846年には同社から「クリプトガム氏」がこのタイトルで出版された。イギリスのD.Bogueの版を流用している。この本も版元を変えながら1870年代以降も刊行され続けている。

Wilson 1842 年 表紙



Wilson 1842 年

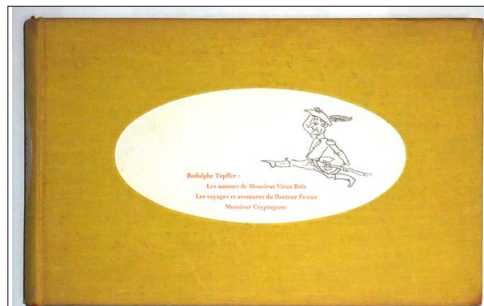


7. 肉筆アルバム復刻版

肉筆アルバムは何度か復刻出版されている。確認できているものは、いずれも Manuela Maschietto という人物が解説を書き、ヨーロッパの古書市場などで流通している。主要7作品のうち「ペンシル氏」だけは、これまでに刊行されたことがないようだ。

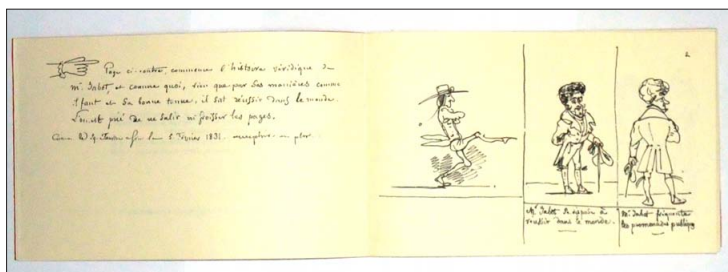
■ Club des Libraires de France 版 (1962 年フランス)

ヴィユ・ボワ、フェステュス、クリプトガムの3作品の肉筆アルバムをまとめたハードカバーの本。解説：Manuela Maschietto。



■ Bibliotheque romande 版 (1971 年スイス)

ジャボ氏のみを復刻した本で、箱入り。解説：Manuela Busino-Maschietto。



■ Aldo Garzanti 版 (1973 年イタリア)

ヴィユ・ボワ、フェステュス、クリプトガム、ジャボ、クレパン、アルベールの6冊セット。それぞれアルバムのサイズやインクの色も含めて、丸ごと再現しようとしている貴重な資料。6冊がぴったり収納できる箱に入っている。解説：Manuela Busino Maschietto。



2020 年 4 月 1 日 第 1 版 Rev.3

制作：佐々木果

発行：オフィスヘリア

〒113-0033 東京都文京区本郷 4-26-8